

あ い さ つ



一般財団法人 鹿児島陸上競技協会
会長 玉川 浩一郎

新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに希望に満ちた新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃より、鹿児島陸上競技協会の事業に多大なるご尽力とご理解を賜り心から御礼申し上げます。

2022年は、ウクライナ問題、円安、エネルギー高騰、収まらぬコロナ禍への対応等、心休まる事のない一年でありました。そのような中、大リーグの大谷翔平選手の投打にわたる驚異的な活躍や、サッカーワールドカップでの日本チームの善戦は、国民を勇気付け、皆の心に明るい灯をともしてくれました。それは、スポーツの持つ大きな力を再確認する機会にもなりました。

昨年、鹿児島県の陸上競技関係では、男女合計で、県新記録9種目、高校新記録10種目、中学新記録4種目の新記録が誕生致しました。また、大会別には、世界ジュニア陸上、栃木国体、日本学生陸上、全国高校総体他多くの競技会で鹿児島県出身選手の活躍が見られました。選手本人の努力はもとより、関係各位のご尽力に深く敬意を表します。

今年はいよいよ、前回開催より51年を経てかごしま国体の開催となります。既にご案内のとおり、コロナ禍の紆余曲折を乗り越えての実施となります。本大会実施に向け、大変多くの関係各位のお力添えを頂いております。競技団体として国体開催に力を尽くされた全ての皆様に心からの御礼を申し上げます。選手の皆様には、これまでの研鑽の成果を存分に発揮して頂けるものと期待致しております。

また、先般の秋の叙勲にて、当協会副会長はじめ多くの陸上競技に関わる要職を歴任され、長年にわたり鹿児島県の陸上競技の発展に力を尽くされた前村悟様が、瑞宝双光章を受章されましたことは大変喜ばしく、当協会にとりましても大きな慶事でございます。

結びに、2023年が鹿児島県の陸上競技界にとりまして素晴らしい年になりますよう祈念申し上げますとともに、協会の発展・充実に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。年頭にあたりましてのごあいさつといたします。